

時 報

待望のランドレース種豚 酪試・和牛試へ導入

すぐれた加工肉用豚として有名なランドレースがこのほど岡山へ導入された。これはこの夏三木岡山県知事が欧州出張の際に輸入の話しが本決まりとなり、このほど東京の貿易商社野沢組を通じ2回にわけて29頭が輸入されたもの。

第1陣は9月29日、航空便で5頭（内オス1、メス4）が羽田空港へ着き、検疫の後姫新線経由で津山市大田の県酪農試験場へ到着。津山駅では三木知事や県畜産課長の出迎えを受けた。

また第2陣の24頭（内オス4、メス20）は船便で10月 日神戸へ到着、これは二手に分かれて11月17日に酪農試験場へは9頭（オス2、メス7）と、和牛試験場へは15頭（オス2、メス13）が同日午前9時過ぎ岡山駅着、伯備線経由でそれぞれ導入された。

大きさは第1陣のものは月令5～6ヵ月、体重70kg、第2陣のものは生後7～8ヵ月、体重90～100kg とかなり大きいものばかり。価格は1頭平均30万円、総額は約900万円。なお残りの1頭は12月中旬到着の予定。

試験場ではとりあえず飼育試験や繁殖を行なって、県下へこれを普及する場合に必要な基礎的な事項を



研究することになっている。

ところでランドレースは昨年1月山梨県に災害援助用として米国から導入されて以来加工肉用豚として話題を呼び、全国的に急速に導入意欲が高まり、36年上期には東日本を中心に約600頭が導入されているものとみられる。

岡山県でも今後民間で導入計画をもっているものも1、2あり、ランドレースブームが起こることも考えられるが、農林省でもいまだこれを正式に奨励する態度を明らかにしておらず、いまのところ、今後の問題として岡山県の風土での適応性や給与飼料、耐病性などいろいろの面で研究を行なって経済的な飼育方法の確認が急がれている。